

第1回あきる野市子ども・子育て会議 議 事 要 旨

- 1 開催日時：平成25年8月29日（木）午後6時～8時
- 2 開催場所：本庁舎503会議室
- 3 出席者（委員12名）
- 4 次 第
 1. 委嘱式
 - (1) 開 会
 - (2) 委 嘱
 - (3) 挨 拶
 - (4) 閉 会
 2. 第1回あきる野市子ども・子育て会議
 - (1) 開 会
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 正副委員長の互選
 - (4) 正副委員長挨拶
 - (5) 議 事
 - ①子ども・子育て支援新制度について
 - ②国の基本指針の概要について
 - ③子ども・子育て支援事業計画の概要について
(次世代育成支援行動計画の評価、今度のスケジュール含む)
 - ④ニーズ調査について
 - (6) その他
 - (7) 閉 会

1. 委嘱式

- (1) 開 会

事務局

- (2) 委嘱書の交付
- (3) 市長挨拶

皆さんこんにちは。まだまだ残暑の厳しい中、本日はお集まりいただき、この委嘱式ができましたこと、また子ども子育て会議の委員をお引き受けいただきましたこと誠にありがとうございます。あきる野市の子ども子育ての条例が6月定例審議会で決定され、それに基づいて子ども子育て会議を設置することになりました。ご承知のように、子ども3法ができて昨年の8月に子ども・子育て支援法が公布され、これに基づいてあきる野市も条例をつくりました。現在の社会情勢

をみますと子どもたちを取りまく環境というのは厳しくなっており、少子化の中で家庭においても社会においてもより良い環境をつくっていかねば、健全な子どもたちが育つ環境にはならないと思います。健やかに子どもたちが成長できるように、市長として精一杯あきる野市の町づくり、あきる野市を育てる教育、保育に取り組んでいきたいと思っております。消費税が27年に10%になった段階で、多分そうなるのではないかと思います、おおよそ7000億円財源をこれにあてていくことになっております。これから27年から31年までの5ヶ年の計画づくりをやっていただかなければなりません。皆様には大変なご苦勞をおかけいたしますが、是非頑張って良いあきる野市の子ども会議、支援の会議ができますようにご協力、ご参加をお願いしたいと思っております。これから会議が皆様の手によって設置されますので、いろいろご審議いただきますようお願い申し上げます。

(4) 閉 会

2. 第1回あきる野市子ども・子育て会議

(1) 開 会

事務局

(2) 出席者紹介

(3) 正副委員長の互選

委員長 吉田委員、副委員長 小机委員

(4) 正副委員長挨拶

委員長

委員長をご指名いただきました。今回の新しい制度というのは、民主党政権の時に子ども子育て新システムという議論からはじまって、3党修正協議で昨年8月に関連3法の方が成立し、27年度から制度が開始されるということです。また前の自民政権の時にすでにこの議論をやっており、当時私は社会保障審議会少子化対策特別部会の委員をやっておりました。それから認定こども園制度というのがありますが、これも内閣府の認定こども園制度のあり方など委員としてやっておりました。今回新しい制度にいろいろな意味で関わりがあるということで、あきる野市のお手伝いをということだと思います。委員の皆様方のいろいろなお手伝いができればということで進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

副委員長

いろいろ皆様方のご意見を直接うかがいたいといってもなかなかご意見をうかがえないことが多いので、是非活発にご意見を出していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。続きまして議事に入らせていただきます。ここからは子ども子育て会議条例第8条第2項をもって委員長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

この会議は12名ということで、良い意味でひとり一人に発言がいただけるのではないかと思います。まず子ども子育て支援の新制度ということで、いろいろな情報があるかと思いますが、なかなか整理された説明は聞かれていないかと思います。今までの幼稚園の仕組みも合わせてかなり変わっておりますので、あらためてこの新しい制度がどういうものなのか、またこの子ども子育て会議が非常に重要な役割を担いますので、そこに関わる部分に少ししぼって、この新制度全体像のポイントだけ先にご説明したいと思います。その後にご検討いただかなければならないことがございますので、それは事務局の方からご説明いただきたいと思います。

(5) 議 事

①子ども・子育て支援新制度について

委員長より資料に基づき説明が行われた。

②国の基本指針

③子ども子育て支援事業計画について

(次世代育成支援行動計画の評価、今後のスケジュール含む)

事務局から資料について説明した。

委員長

あきる野市の次世代育成行動支援計画は、国の次世代法に基づいて0歳から18歳未満までの青少年を含んだものです。一方今回の子ども子育て支援事業は基本的には小学校就学前の乳幼児、プラス放課後児童となっており、中高生は入っておりません。市としてはもちろん制度上区別をしていますが、あきる野市としては国の方針を中心としつつも、基本的にはあきる野市の18歳未満の子どもという視点はどこかにお持ちいただいた方が良くと思います。それから今のタイムスケジュールの中で、特に私立幼稚園をはじめとした既存施設に対する新制度の移行についてですが、実は私立幼稚園というのは新制度に乗らなくても良いという例外があります。今私立幼稚園の所管は東京都で、都から補助金をもらっているのですが、新制度は保育所と同じようにあきる野市の所管ということで、市から保育所と同じ補助金を今後受け取ることになります。それが嫌な幼稚園は東京都に残って良いということで、来年春には東京都に残るのか、あきる野市に私立幼稚園として移るのか、それを判断しなければならないところが中心になっていると思います。私立幼稚園はそういう特別な部分があるということです。それでは今いろいろご説明いただきましたが、これに関してご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。ニーズ調査の方に時間をかけた方が良くと思いますので、引き続きニーズ調査についてのご説明をお願いします。

④ニーズ調査について

事務局から資料について説明した。

委員長 先ほど品川区の会議でもニーズ調査の質疑を行なったのですが、共通して出るのはあまりに項目が多いということ、回収率は大丈夫かということです。そこでまず整理しておきたいのは、国の子ども子育て支援法に基づいて市町村での5年計画の事業計画策定は法律で義務化されています。その際、国の示したひな形を参考にしながらニーズ調査をし、そのデータに基づいて供給計画を立て、需要と供給のバランスを図る計画にするというのが法律で求められています。あきる野市の様々な幼児教育、保育園や子育て支援のニーズを正確に図り、把握するためにニーズ調査は大事だと思います。ただ内容が多いため、時間がかかるし良く考えないと質問の意味がわからなくて答えようがなかったという意見もあるようです。そういうものは改善して、あまり考えなくても答えられるようにするなどの工夫も必要だと思います。そういうことも含めてご質問、ご意見があればと思います。

委員 アンケートを行って見ましたが大変でした。文を読んで理解するのも、もう一度読み直して考えたりしました。9番に「病気の際に」という表現がありますが、幼稚園にいつている子で病気だけでも自分も出かけなきゃいけないというような場合にはここに当てはまるのか、保育園に通園している子どもを対象に病児保育があるというのを見ると、ここはどうやって答えたら良いのか一瞬わからなくなりました。また幼稚園に通わせていて働いている方もいると思うのですが、働いているという状況をふまえるとちょっと答えにくい、分かりにくい部分があるかなと思いました。

委員 項目が多いというのもその通りですが、項目を全体的に見ると市や行政側からこちらに求めるばかりで、本当に育てている母親なり父親なりの気持ちに添う意思があるのかというのが読み取りづらい気がしました。たとえば12番の「子育て全般についてうかがいますが」あたりは逆にもう少し突っ込んで聞いてあげる姿勢も大事なのでは。育児をしている方に寄り添っていく資料をつくった方が、自分のことをこんなに聞いてもらえるのだということ、答えやすいのではないかと思います。

委員長 父親の側からはいかかですか。

委員 母親が子どもをみている家庭だと父親が記入することは難しい。両方でみているところは一緒にいる時にしか書けないなど、その辺が大変なのかなと思いました。また4番の間16は、保育所や幼稚園ごとのメリット、デメリットのような感じの間にした方が、保育所は何が良くて何がだめなのか、なぜ保育所に入れるのか、なぜ幼稚園に入れるのか、そういうことがよりわかると思います。その方がここを直せばもっとニーズが増えるなど、いろいろわかってくるのかなという

感じがしました。

委員長
委員

ありがとうございました。幼稚園の現場の方はいかかですか。

アンケートが膨大ですが、回収率はどれくらいを見込んでいるのでしょうか。今困っていることがある方などは積極的に書かかれるでしょうが、まだ子どもが0歳1歳では何もわからないし書けないと思います。そういう人が消極的になると回収率と書いた人の階層が偏ってしまうのではないのでしょうか。最後集計するときには、そういうものを加味して数字を出さないと難しいのかなという気がしました。それから幼稚園の立場から発言させていただきますと、今幼稚園では制度上はないのですが、2歳児保育というものをほとんどの幼稚園がやっています。幼稚園に入る前の1年間、週に1日か2日、1日2時間から3時間で、これはニーズが多いからやっているわけで、年少時に入ってくる幼稚園児の半分以上、だいたい150名ぐらいは通っていると思います。これは集団の中での教育を期待している部分と一時預かりという機能を果たしており、またそこへ行くことによって先生と子育て相談をしたり、保護者同士のネットワークができたりという子育て広場的な機能も果たしております。この幼稚園の2歳児保育というのが間に全然出てこないの、そこは入れていただきたいと思います。それから学童保育についても下のお子さんが幼稚園にきている場合、卒園児を放課後や夏休み冬休みに幼稚園で預かり保育ということで受け入れることを積極的にやっています。問11「放課後の過ごし方についてうかがいます」という項目がありますが、ここにも幼稚園、保育所を選択肢として入れていただきたいと思います。それからこれだけ膨大なものを一人ずつの意見を聞いて、ここで良い悪いを議論して決定するというのは非常に物理的には厳しいものがありますので、ここでは大まかな意見等を議論して、あとは個別に必要ながあれば文書等で意見を出していただいて、事務局でそれをすり合わせて、もう一度確認したうえでニーズ調査を実施するというように、これをまとめる作業の手順についても考慮していただきたいと思います。

委員長

他自治体の会議でも事前に委員の方々にアイデアやご意見等を出していただき、それを事務局で整理をしたうえであとは正副会長に一任していただくということに決まりました。ここはここのルールでやれば良いと思いますが、まずは基本的なご指摘、ご意見をいただき、あとは個別に事務局の方にご質問なりご意見を出していただいて、それを整理しながら進めさせていただきたいと思います。

委員

基本台帳から2000名を抽出と書いてあるのですが、その対象者が保育園に通っている子と幼稚園に通っている子、どこにもいってない子ではかなり違ってくると思います。それがきちんとニーズ調査として平均的に分けられるものなのかが心配です。11ページの一番上、問19「待機児童を減らすために効果的な取り組みはなんだと思いますか」という項目の中で、1番から4番までは良いと思うのですが、5番の送迎保育ステーションの整備というのが、一般の方に保育

ステーションという言葉がわかるのかどうか疑問です。保育ステーションとは何かという説明を入れた方が良いのではないかと思います。それから7番が非常に問題でして、保育園が0～2歳児、幼稚園が3～5歳児に特化となっていますが、今こういった要望等が出ている部分ではありますが、特に国や都にしてもこういった方向性を打ち出しているわけではありません。保育園側としても0～2歳児だけをやりたいという意向はありませんので、この項目を誰が入れられたのか、ちょっと不快に思いました。それから14ページの「土曜日、日曜日の月に1、2回利用したいを選択した方」ということで、1、3はもっともだと思うのですが、2と4は先ほどリフレッシュのためというようなお話もありましたが、余暇のため、平日にすまされない用事というのは非常に不鮮明で、平日パチンコにいけないから日曜日にいきたい、これも親が用事と判断したら用事になってしまうのではないかと思います。保育園の園長の立場としては、日曜日ぐらいは家庭でみていただきたい、家庭で過ごしていただきたいと考えています。待機児童というのは親の立場で考えられる部分が多々あるかと思うのですが、預けられるお子さんの立場で休日保育というのは良いのかどうか、そういったところは難しい問題だと思います。ただ息抜きでも日曜日預けて良いというような設問が相応しいかどうかは、非常に大きな問題かなと思います。

委員長 休日保育はそれなりの必要性があった場合ということで、息抜きリフレッシュは基本的には一時預かりの範疇です。ただ息抜きというのは微妙な表現なので、これは少し検討した方が良いのではないかと思います。

委員 私も孫がおりまして、娘にこれを見せたのですが、これだけのものをじっくり読んで記入するのはなかなか難しいと言っておりました。それから0歳から5歳の中で2000人を選ぶのは、年齢構成を考慮して選ぶのでしょうか。先ほどお話がありましたが、年齢だけでなく現在どこに通っているのかなども少し意識の中に入れておかないと客観的なデータは得られないと思います。それから親のを中心にしてこのアンケートはできていますが、実際に子どもの健全な育成をしていくうえでどうなのかという内容もアンケートの中にあっても良いのではと感じました。私は児童館長という立場ですが、旧秋川地区は児童館の中に学童保育が入っておりますので、児童館長といえども学童クラブの運営と管理もやっております。その立場からいうと、今後6年生までが対象になっていくということも具体的にどこかで示していくことが大切だと思います。同時に特別支援を必要とするお子さんの保護者の方が、どんな気持ちでどういうものを要求されているのかというあたりも是非アンケートに入れていただければと思います。

委員長 障がい児関係については国の方がまだ整理されていないので、入ってきていないのではないかと思います。というのは、幼稚園は特別支援で文科省の補助金が入りますが、障がい児保育は一般財源で、国の財政措置ではなく市町村でということになっています。同じ障がいを持ったお子さんでも幼稚園と保育園、文科省

と厚労省で財政措置のあり方が異なっているということです。しかし今回これを同じ施設型給付という制度でやるのに、障がい児だけが国の所管の関係で財政措置のあり方が違うという問題があり、これは国でもう少しこれから議論していくと思います。それから私は地域が非常に大事だと思います。

委員 それもそうなのですが、別のことで。この子育て支援ニーズ調査ご協力のお願いと書いてありますが、書き方がちょっと…。なるべく回答が戻ってくるような書き方をもう少し考えていただきたいと思います。是非ご回答願いたいというようなことも書いていただければと思います。

委員長 それはおっしゃる通りです。先ほどの会議でも何かお土産をつけないと返ってこないのではという話がありました。お土産をつけるわけにはいきませんが、たとえば地域によっては待機児童をなくすことにつながる、子育ての負担軽減や楽しみが増すような今後の市の施策に活かすなどの鏡文をつけていただくと、大変だけどちょっと頑張って答えてみようかと思っていただけるのでは。事務局の方で少しご検討いただきたいと思います。やはりたくさん返ってきた方が良いと思いますので、お願いいたします。

委員 先ほど委員の方々がおっしゃったように、やはり回答されるお子さんの年齢によって偏った意見が出てくる心配があるかなと思います。それから地域によっても違ってくるのでは。また事務局でどのくらいの回収率を想定されているかわかりませんが、おそらくこれだけのボリュームがあると回収率は2割いかないのではないかと思います。そのくらいの回収結果で今後の会議で検討できるのかなというところが心配です。

委員長 あきる野市では前回次世代育成支援の後期行動計画でもアンケート調査をされましたが、データはありますか。

事務局 次世代行動計画の77ページにあります。0～5歳は47.6%となっています。

委員長 50%近いですね。項目はほぼ同じぐらいでしたか。

事務局 6歳～9歳は50.5%です。一点訂正させていただきます。0～5歳の人口が4月1日時点で3976人ということなので、4000人弱の5割ということになります。

委員 働きながら保育園にいつている保護者としては、本当に毎日バタバタの中でいい加減になりそうだなというところがあります。あとは先ほど休日保育の問にありましたが、息抜きのためというところはやはり検討してほしいと思いました。

副委員長 マーカーで黄色と緑と分けてあるものは国で示されている必須項目とありますが、この質問の言葉は国で決めたものそのまま載せているのですか。

事務局 多少読みやすくしております。

副委員長 国の質問らしくてとてもわかりにくいです。そしてとても長い。設問をもう少し簡便にしてわかりやすくすれば4～50%という回答率は得られると思います。

項目が3行4行、これでは読んでいて嫌になりますし、内容を理解できない人も半数以上いるのではないのでしょうか。もっと短く質問できそうなものもあるので、もう一度ご検討いただければと思います。また赤か何かで是非回答していただきたいとちょっとハンコを押すなどしても回収率は上がると思います。忙しい中で回答いただくということですから、何か開けたくなるように封筒に書くか、押すかした方が良いのではないかと思います。

委員長
事務局

ありがとうございます。このタイムリミットはどうなっていますか。

アンケートはなるべく9月の早い時期に送付したいと考えております。回収にも1ヶ月弱ぐらいはみた方が良くと思いますし、10月になってしまうと集計、集約ができませんので。

委員長

ご意見をいただくのは来週いっぱい大丈夫ですか？良い意見は反映して、なるべく回答しやすいものにして、回収率も上がるに越したことはないと思いますのでよろしくお願いします。

事務局
委員

皆様のご意見をうかがうのは来週いっぱいということでお願います。

日々の子育てプラスPTAの委員になっている方はその活動、働いている方も日勤や夜勤いろいろな方がいらっしゃるということで、このアンケートをどこまでやってくれるかなと不安に思います。実際これだけ効果が上がりますということをも文面にうたえば少しは良いかと思しますので、大変だとは思いますがよろしくお願いします。

委員長

皆さんほぼ共通したご意見だったと思います。30分以内に記入が終われば少し頑張れるかなと思いますので、なるべくそこに向かっていくようなかたちでもう一度整理し、改善していきたいと思えます。また他にご意見等があれば来週いっぱいまでに事務局に出していただいて、それをふまえて整理したものを最後副委員長、委員長に見せていただくということでもよろしいですか。調査項目ももちろん大事ですが、データをどういうふうに取り出してそれをどう活かすかが実はもっと大事になります。次回は大変重要な会議になりますので、よろしくお願いします。それでは最後に事務局から何かございますか。

(6) その他

事務局

先ほど小学生のアンケートの説明ができませんでしたので、内容を見ていただいたうえでご意見をいただければと思います。またご意見をいただく方法に関しては電話番号しか示しておりませんので、FAX番号とメールアドレスを後程ホワイトボードに書かせていただきます。

委員長

メールが一番時間も取らず良いのではと思います。その辺の事務対応よろしくお願いします。

事務局

連絡事項です。今回は保育室の用意ができなかったのですが、次回以降ご要望がありましたら保育室を用意させていただきたいと思えますので、よろしくお願いします。また次回は11月27日(水)に第2回の会議を予定しております。

す。正式に決まりましたら早めにご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。

委員長

保育の対応は非常に重要だと思います。会議そのものから子育てに優しくなければならぬと思いますので、次回以降よろしくお願いいいたします。それでは第1回の会議はこれで終了したいと思います。ありがとうございました。

以 上